

報道機関各位

令和 7 年 10 月 8 日



令和 7 年度芦屋町歴史民俗資料館特別展 「金屋遺跡展」を開催します

茶の湯釜の名品、芦屋釜を生み出した工房跡「金屋遺跡」

茶の湯釜の名器、芦屋釜は、南北朝時代頃（14 世紀半ば頃）から筑前国芦屋津金屋で造られました。その場所は、現在の芦屋町中ノ浜付近のことで、ここで発見された遺跡が中世の芦屋鋳物師の工房跡を中心とする「金屋遺跡」です。

金屋遺跡の最初の発掘は、平成 5（1993）年の確認調査でした。このとき、鋳造関係の遺物が確認されたことで、芦屋釜の工房跡地である可能性が高まり、翌年の平成 6（1994）年から平成 7（1995）年の 2 ヶ年で、金屋遺跡の第 1 次発掘調査が実施されました。その後も、継続的に調査が続けられ、これまでに第 5 次調査まで行われています。

金屋遺跡からは鉄の塊や鋳型、鋳造用具、炉壁の一部、こしき炉基底部などが発見されました。これらの出土品は、芦屋釜等の鋳物の製作がこの場所で行われていたことを示す貴重な資料です。

本特別展では、金屋遺跡から出土した資料を中心に展示します。



金屋遺跡発掘の様子
(平成 6 年)

令和 7 年 2 月に芦屋町指定有形文化財へ新規指定した資料を詳しく紹介



芦屋釜鋳型(金屋遺跡出土品)



こしき炉基底部(金屋遺跡出土品)



合戦ヶ原出土素文平釜

芦屋町では、令和 7 年 2 月 29 日付けで、「金屋遺跡出土品（芦屋釜鋳型、こしき炉基底部）」と「合戦ヶ原

出土素文平釜」を芦屋釜や芦屋鋳物師に関連する貴重な資料として、芦屋町有形文化財に新規指定を行いました。

①金屋遺跡出土品（芦屋釜鋳型、こしき炉基底部）

金屋遺跡は中ノ浜にあり、芦屋釜の工房跡が発見された遺跡です。芦屋釜鋳型は、釜づくりのための鋳型の一部です。その鋳型は、芦屋釜の代表的形である「真形(しんなり)」であること、胴部に霰文様が表されていることがわかります。

こしき炉基底部は、金属を溶かすための溶解炉を据えるための土台の部分です。作業時には、この基底部の上にこしき炉を構築し、金属を溶解し、鋳物製品を製作します。

②合戦ヶ原出土素文平釜

素文平釜は、芦屋町の合戦ヶ原（現在の芦屋中央公園のあたり）から発見されました。この釜は茶の湯釜ではなく、煮炊き用の釜と考えられています。作りは精巧で、芦屋釜と同じ技法で作られたと考えられ、芦屋鋳物師に関連する作品として貴重な資料です。

本特別展では、この2件の資料についても詳しく紹介します。

開催概要

【特別展】

- 1.日時 令和7年10月15日（水）～12月7日（日）9：30～17：00（入館は16：30まで）
※月曜日は休館です。ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日が休館です。
- 2.場所 芦屋歴史の里（芦屋町歴史民俗資料館） 遠賀郡芦屋町大字山鹿1200
- 3.入館料 18歳以上200円、小・中・高校生100円

【ギャラリートーク】

- 1.日時 11月2日（日）10：00～
- 2.定員 15人（事前申し込み先着順）
- 3.申込 10月26日（日）～11月1日（土）9：30～17：00に芦屋歴史の里（Tel093-222-2555）へ
※月曜日は休館日です。

問い合わせ先

【芦屋町役場】芦屋釜・歴史文化課 芦屋釜の里・歴史の里係

芦屋町歴史民俗資料館（芦屋歴史の里）担当：其田

☎093-222-2555